『百人一首』中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力（三十二）

月見れば千々（ちぢ）に物こそ悲しけれ　わが身ひとつの秋にはあらねど

大江千里（おおえのちさと）

〈歌意〉
「月をみていると、いろいろと物悲しく感じられる。私一人のために来た秋ではないのだけれど。」
この歌は『古今集』（秋・一九三番）に出ています。

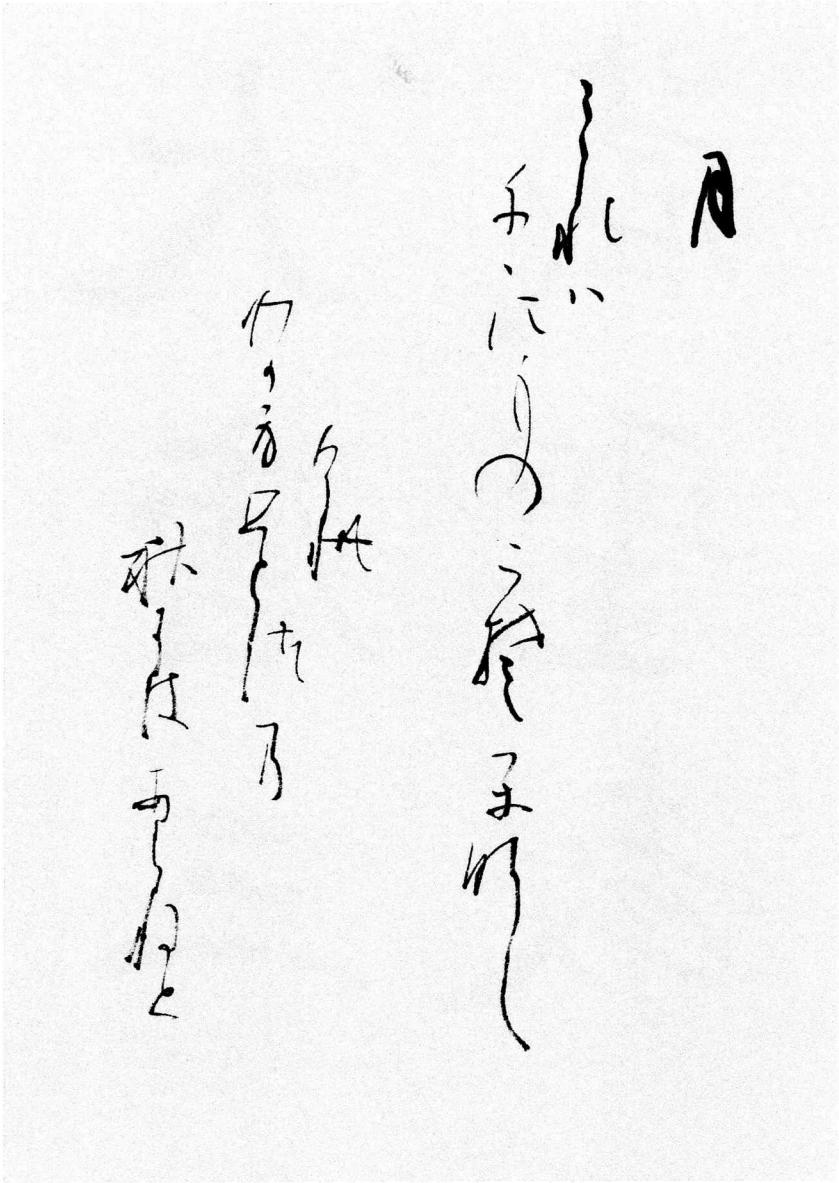
（大江千里）
生没年未詳。在原業平の甥で、寛平・延喜ごろの人。

〈字母〉

月

ミれハ
千丶にもの こ楚 閑 那 し
个禮（けれ）
わ可身悲と徒乃
秋尓（に）はあらねと

上の句を四行に散らし、下の句を二行に散らして書かれています。（青藍）



中村素堂先生の書　大島香菊様提供